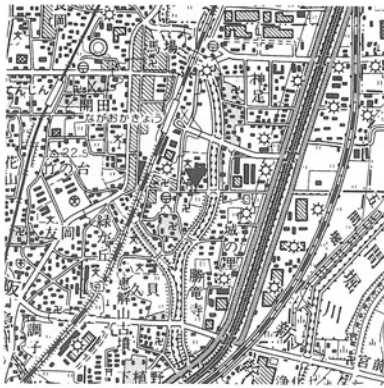


# 京都・中世勝龍寺城跡

- 1 所在地 京都府長岡京市東神足二丁目
- 2 調査期間 一九八四年(昭59)五月～八月
- 3 発掘機関 長岡京市教育委員会・財長岡京市埋蔵文化財セン
- 4 調査担当者 岩崎 誠
- 5 遺跡の種類 城館跡
- 6 遺跡の年代 室町時代(一五七一年～一五八六年)
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(京都西南部)

勝龍寺城は、小畑川と大川の合流点付近に位置する中世後期の平城である。築城については、暦応二年(一三三九)に細川頼春・師氏によるとする説と、長祿元年(一四五七)に畠山義就が乙訓郡役所として造営したとする説がある。戦国時代末期には松永久秀と三好三人衆の属城となっていたが、織田信

長がこれを攻略し、永祿三年(一五六〇)には細川藤孝に下される。細川藤孝は元龜二年(一五七一)に城を再整備するが、天正九年(一五八一)に藤孝は宮津城に移り、翌年の山崎の戦いにおいて、明智光秀軍の拠点となり、落城した。

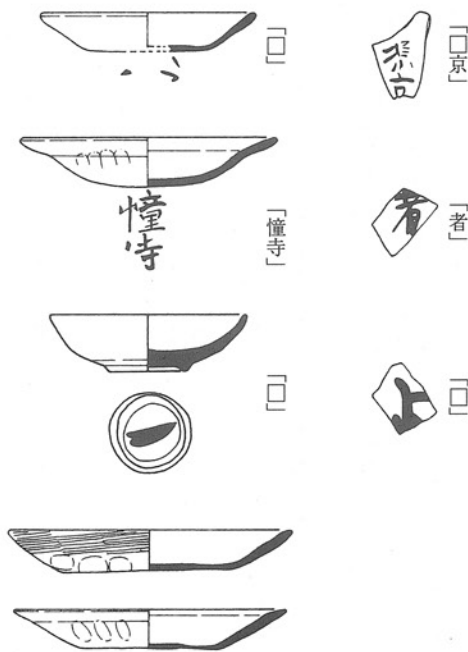
今回の調査地はJR長岡京駅の南東約四〇〇mに位置し、長岡京跡右京第一六三次調査として実施したものである。木簡は、勝龍寺城東辺外堀SD一六三〇五のC期堆積層から、「懂侍」「者」などの墨書土師器皿とともに出土した。東辺外堀SD一六三〇五の規模は、最大幅約五m深さ二mで、断面逆台形を呈する。土師器の特徴から、一六世紀後半期と考えられ、細川藤孝が大改修した時期前後の遺物と思われる。

## 8 木簡の釈文・内容

(1) [カイン] [大般力]  
奉転読 □ □ ×

(272) × (42) × 3 081

大般若経転読札の断片である。上端を山形に尖らせた形態で、ヒノキの板目材を用いている。墨書面は片面のみで、平坦に加工しており、裏面は板割り時の木目に沿った凹凸が残る。左側面は欠損しており、欠損部の一部に焼け焦げと思われる黒色炭化が見られる。木簡の出土位置は勝龍寺城の北東隅にあたる。また、出土地点から約二五m北に西接する土塁には、六世紀末の古墳が封じ込められ



東辺外堀出土土器

ており、今回の木簡の出土位置は、その用途を考える上で興味深い。  
関係文献

長岡京市教育委員会『長岡京市文化財調査報告』一五（一九八五年）  
同『長岡京市文化財調査報告』一七（一九八六年）

（岩崎 誠）

## 木簡研究 第二五号

巻頭言—木簡を観る—

二〇〇二年出土の木簡

平川 南

概要 平城宮跡 平城京跡右京二条三坊三坪 西大寺旧境内 興福寺  
一乗院跡 藤原宮跡 藤原京跡左京七条一坊 藤原京跡右京一条一坊  
藤原京跡右京六・七条四坊 飛鳥京跡苑池遺構 酒船石遺跡 坂田寺  
跡 長岡京跡 平安京跡右京三条一坊六町 東寺（教王護国寺）旧境  
内 中之島六丁目所在遺跡 長原遺跡 西ノ辻遺跡 鬼虎川遺跡 中  
野遺跡 讀良郡条里遺跡 三原石田遺跡 中林・中道遺跡 貞養院遺  
跡 上橋下遺跡 中村遺跡 箱根田遺跡 五合榎遺跡（仏法寺跡）  
下宅部遺跡 騎西城跡 騎西城武家屋敷跡 大慈恩寺遺跡 羽黒遺跡  
野路岡田遺跡 西河原遺跡 西河原宮ノ内遺跡 三堂遺跡 弥勒寺西  
遺跡 松本城下町跡中町 薬師遺跡 佐野城（春日岡城）跡 泉慶寺  
跡 仙台城跡（二の丸北方武家屋敷地区） 大古町遺跡 市川橋遺跡  
志羅山遺跡 中尊寺境内大池跡 藩校明德館跡 新城平岡（四）遺跡  
石盛遺跡 畝田・寺中遺跡 中屋サワ遺跡 南新保北遺跡 下沖北遺  
跡 浦廻遺跡 草野遺跡 屋敷遺跡 青木遺跡 黄幡一号遺跡 延行  
条里遺跡 浜ノ町遺跡 新蔵町三丁目遺跡 常三島遺跡 守護町勝瑞  
遺跡 南江戸蘭目遺跡 別府遺跡 朽網南塚遺跡 下月隈C遺跡群  
高畑遺跡 元岡・桑原遺跡群  
一九七七年以前出土の木簡（二五） 坂田寺跡  
釈文の訂正と追加（六）

志賀公園遺跡（第二四号） 元岡・桑原遺跡群（第三号）

中世木札文書研究の現状と課題

田良島 哲

長登銅山遺跡出土の銅付札木簡に関する一試論

畑中 彩子

古代荷札木簡の平面形態に関する考察

友田那々美

書評 富谷至編『辺境出土木簡の研究』

高村 武幸

彙報

頒価 五〇〇〇円 送料六〇〇円